



2000年11月08日

**「ADAC VW ニュービートル カップ 2000」 ホッケンハイム最終戦
日本人ドライバー山本選手、初出場にして堂々の4位獲得！
Japanese NBC winner Masayuki Yamamoto 4th in final round of German NBC at
Hockenheim.**

フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社(略称:VGJ、代表取締役社長:ピーター ノッカー)がサポートする、“ニュービートル カップ ジャパン”のシリーズ チャンピオン 山本将之選手と、V・T・A(Volkswagen Trophy Association/フォルクスワーゲン トロフィー アソシエーション)主催のフォルクスワーゲン レーシングGTIカップのシリーズ チャンピオンである塚原 久選手の2名が、ドイツ ホッケンハイムで開催された「ADAC VW ニュービートル カップ」の最終戦に日本人ドライバーとして初めて参戦。最終的には後続を従えた山本選手が4位に食い込む快挙を果たしました。

ドイツ国内で最大規模を誇る「DTM」ドイツ ツーリングカー選手権と共に開催された「ADAC VW ニュービートル カップ」は、ドイツ国内で本年度10戦行われ、最終戦のホッケンハイムには約4万人ものレースファンが早朝から押し寄せました。今回参加した山本、塚原両選手は、27日(木)の練習走行会で熟達した本場の選手たちと共に、2.8リッター204ps、そしてレーシーなエクゾースト ノートのカップ カーと、全長6kmにも及ぶ荒れてμ(ミュー)の低いコースを初体験。限られた時間の中でマシン コンディションとコース パターンの習熟を行いました。また決勝当日のVW ホスピタリティ コーナーでは、日本から遠征してきた2選手のための記者会見が行われ、初めての海外レースに対する感想や日独間のレースの違いなどについて質問を受け、親日国家ドイツならではの歓迎ムードと、期待に包まれたユニークなインタビューとなりました。

決勝は前日28日(土)に行われた公式予戦の結果によって、山本選手が16位、塚原選手が18位からのスタートとなり、今年のタイトル争いが掛かったトップ4名の首位争いはレース序盤からし烈を極め、特に高速コーナーから抜けた直後のシケインでは、3台の優勝候補がスピンしながら大きくクラッシュする大荒れのレース展開となりました。一方日本人ドライバーの活躍も素晴らしく、レース終盤のラスト2周目に、チャンスを待ち構えていたゼッケン34番 山本選手がアイルトン セナ コーナーで最後の勝負を仕掛け、痛快の4位浮上。塚原選手も後続を従えてファイナル ラップを向かえ、両選手ともに大幅なポジション アップでフィニッシュ。ドイツ レース界に大きな足跡を残す、記念すべき第一戦を披露する事が出来ました。

なおADAC VW ニュービートル カップ 2000の最終結果は、ブラウミュラー トーマス(国籍:ドイツ)が年間のシリーズチャンピオンに輝き、賞金と共に新車のニュービートル1台が与えられました。

最終戦の順位とタイム及び年間の獲得ポイントと順位

決勝順位	ゼッケン	ドライバー氏名	周回数	国籍	決勝タイム(順位)	年間ポイントと順位
1位	7	モロゾフ デニス	8	北デンマーク	24:39.521	112 (8位)
2位	23	ブラウミュラー トーマス	8	ドイツ	24:41.556	176 (1位)
3位	3	キューナスト アレクサンダー	8	ドイツ	24:48.809	90 (11位)
4位	34	山本将之	8	日本	24:49.786	17 1
11位	35	塚原 久	8	日本	25:01.317	11 1

1 出走18台、うち完走12台。日本人選手はスポット参加ですが、今回の参戦で完走したためポイントが与えられました。